

28PA-am376

北陸大学における初年次教育導入プログラムの実践

○畑 友佳子¹, 木藤 聡一¹, 倉島 由紀子¹, 周尾 卓也¹, 武本 眞清¹, 荒川 靖¹, 中越 元子¹
(¹北陸大薬)

【目的】本学では、6年制薬学教育における初年次教育の学修効果・成果を重要視している。そのため、大学入学直後の学生に対し、仲間作りから始まり、学修への意欲、心構えを考えさせる目的で導入プログラムを設けている。2016年度入学生には、入学1ヶ月後に導入プログラムを実践した。2017年度は、このプログラムを入学直後に行い、さらに1年次必修科目の「基礎ゼミⅠ」へとつながりを持たせ、初年次に身につけるべき学修スキル等の習得を目指している。今回、2016、2017年度入学生に対する経時的な振り返りアンケートの結果から、初年次教育導入プログラムの重要性やより良い実践方法を考察する。

【方法】2016年度入学生は、プログラム実践の1週間後及び2年次進級時、また、2017年度入学生は、プログラム実践の1週間後及び後期授業開始時に、プログラムに対する振り返りアンケートを実施し、学生の経時的な意識変化を比較した。

【結果・考察】2017年度入学生は2016年度入学生と比較し、導入プログラムで最も重要だったと考える内容は仲間作りであったとする回答が多かった。また2016、2017年度入学生はともに、プログラム実践1週間後では、ほとんどの学生がプログラム実践の重要性を理解していた。しかし、2016年度入学生は、2年次進級時には半数近くの学生がプログラムでの気づきを普段の生活に役立てていないと回答した。一方、2017年度入学生では、後期授業開始時に約70%の学生がプログラムでの気づきを今でも役立てていると回答した。これは、2017年度は学修のための仲間作りを強く意識したプログラムを実践したこと、実践時期を入学直後としたこと、導入プログラムから基礎ゼミⅠへのつながりを明確にしたことが、学生たちの学修に対する意識・意欲の継続に影響を与えたのではないかと考えた。